

情報数理部門では、学部向け 300 番台の科目として、「代数学 I, II」,「幾何学 I, II」,「解析学 I, II」,「現象数理」,「数値解析」が用意されている。これらの科目は、共通教育科目の微分積分・線形代数の内容が既知の学生に対して、それぞれの分野の基礎となる概念および手法を理論的、技法的、応用的な面に十分配慮して習得させることを目標にしている。これらを学習することで、学生は数理的な考え方を身につけ、それを活用できるようになることが期待される。共通教育科目として開講されている数学関係の授業と合わせて、全体として基礎から応用にいたる幅広い体系的なカリキュラムになっている。

大学院の科目としては、400 番台で「古典解析」,「応用数理」,「数理構造 I」,「数理解析 I」, また 500 番台で「数理構造 II」,「数理解析 II」が用意されている。これらは特定のテーマについて深く掘り下げた専門的な内容であり、通常一クォーター 2 単位で、担当者により多彩な授業が行われている。

以上の科目群から必要な単位数を履修し、「数学科教育法」などの教職関連科目を履修することにより、数学の教員免許を取得することもできる。

研究面では、国際的な専門誌に研究論文を発表し、また国内外の学会、研究集会を主催、研究発表するなど、活発な活動を続けている。